

長岡紫

## 楽聖

「もつと光を」  
そう言って彼は  
この世を去った

死の二十五年も前に遺言を書き  
聞こえない境遇にあっても  
耳を澄ませ  
音を掬った

真摯に向き合う今  
二百五十年後の私達に  
深海から光が届き

ひかりとひびきが  
底力になって  
人は済わられていく

「こちらは禍の中です。  
でも、本能があなたを求めます」